

# 熊本・徳永直の会会報

第39号

## 徳永直生誕百年祭盛会裏に終る

一九九九年二月一三日は好天気であった。午前中の碑前祭は、立田山登山口の徳永直文学碑前で一〇時から始められた。例年のような行事の後記念撮影をした。多くのカメラマンによる撮影が行われたので、より良い写真を下欄に載せたかったが、手元にはこの写真一枚だけがあった。いつも文学碑が参加者によって隠れるので、それを避けるようにとの津田道代さんからの助言があった。今回は午後に記念行事が控えていたので、碑前祭には参加が少ないのではないかと思っていたが、例年になく多くの人々が集まられた。そのことに先ず感激を覚えた。その前に今回の記念祭の後援を、ただ一人熊本県教育委員会から断わられていただけに、殊のほかうれしかった。

午後は熊本市国際交流会館に移り、講演と「太陽のない街」の上映会が持たれた。会館の大ホールが埋まるだろうかとの心配が、常に去来していたが、これも次ページの写真を見られる通りの盛況であった。徳永直に対する関心の深さと御支援に心から感謝するばかりであった。第三部とも言うべき徳永直を偲ぶ会も予想をはるかに上回る参加者で賑わった。手ごたえある生誕百年祭であった。



徳永直生誕百年・孟宗忌第22回の碑前祭



記念行事は岩本税氏の司会で進行した。遺族代表の挨拶が始まる予定だったが、手違いで講演のあと娘の道代さんの挨拶となった。講演は二つで、「徳永直は熊本である」中村青史氏、「徳永直と映画」藤川治水氏。(この講演要旨は『熊本民主文学』第三号(八月日発行)に掲載されている。次の写真はその時のスナップである。



(3)

熊本・徳永直の会会報第39号 1999. 9.





**偲ぶ会風景**  
全体を写したものが少なく、しかも光線不足で暗いのが一枚あったので、これでごまかしていただきたい。



## 浄財により成り立つ

熊本・徳永直の会の経理は、孟宗忌に集まった人々から取り立てる年会費としての一五〇〇円と、思い出して送金して下さる会費とで運営されている。何か事を起こすときは、寄附をお願いする。第二〇回孟宗忌(一九九七)もそれで切り抜けた。今回は会報も記念誌に作成したし、会場費、上映費、看板代などと平常でない出費が必要であった。本当に多くの方々の暖かい支援なくしては何一つ出来なかつただろう。浄財を寄せられた方々のお名前を列挙して感謝の意を表したい。金額は多いに越したことはないが、それにも増して徳永直生誕百年を祝って下さったその心が何より尊くうれしい。(敬称略、アイウエオ順)

### 御寄附御芳名

池田義一、泉滋、一木和世、伊藤、市丸、浦田義和、内野きみ子、江藤、大野たつめ、大木綾子、大我孝、大橋三千代、大友清子、小山哲治、尾脇蒼子、海津広子、吉良初、工藤敬一、久保田義夫、熊懷友春、畷田吉豊、上妻四郎、金野文彦、坂本美津子、沢邦義、佐竹、須田耕史、高田隆子、高光協三、高光睦子、谷口絹枝、千葉昌秋、柘植周子、寺岡葵、徳永光一、徳永街子、中田幸作、永田日出男、永野光哉、西名、西田光子、林田幸子、日高享、平野正憲、藤本、藤本憲信、牧野、三吉輝史、宮内俊介、宮崎政喜、宮本康海、光岡達之、村田秀明、森山秀吉、弥上是子、吉岡恭子、渡辺布威

〈団体〉熊本県観光連盟

### 会計報告 1

1997. 5. 2 ~ 1998. 4. 27

収入	164,153
繰越金	63,653
会費	60,000
寄附	40,000

(宮崎政喜様、上妻四郎様、熊懷友春様、久保田義夫様)

支出	92,344
会報36号	25,200
会報37号	17,850
通信費	20,000
第21回孟宗忌経費	28,494
差引残高	71,809

### 会計報告 2

1998. 4. 28 ~ 1999. 3. 31

収入	960,160
繰越金	71,809
会費	362,120
寄附	455,000
書籍・会報売上げ	55,000
カンパ	16,231

支出	858,285
会報38号及チラシ	306,600
通信費	36,340
第22回孟宗忌及び生誕百年記念	
事業費	455,345
事務所設置諸経費	40,000
徳永直の会長印	20,000
差引残高	101,875

### 註記

会計報告1は、従来なら会報38号でなされるべきものである。だが、特別記念号となったため今号に回ったものである。

## 熊本・徳永直の会会則

第一条（名称）本会は、熊本・徳永直の会と称する。

第二条（目的）本会は、徳永直の作家と作品を通し、文学を楽しみ、民族のこゝばを常に創造、刷新することを目的とする。

第三条（事業）本会は、前条の目的を達成するために左の事業を行う。

- 1、徳永直文学碑を守り、孟宗忌を開催する。
- 2、熊本・徳永直の会会報を発行する。
- 3、作品研究会、作品朗読会等を行う。
- 4、その他必要と思われる事業を行う。

第四条（組織）本会は、会員、賛助会員及び顧問をもって組織する。

- 1、会員は、本会の目的に賛同し年間会費を負担する。
- 2、賛助会員は、本会の活動を賛助し、応分の経済的援助を行う。
- 3、顧問は、本会の育成発展に寄与し、会長が推薦したものとす。

第五条（役員）本会に次の役員を置く。

- 1、会長 一名
- 2、副会長 二名

第六条（会議）本会は、次の会議をもつ。

- 3、会計 一名
- 4、会計監査 二名
- 5、評議員 若干名
- 6、顧問をおく事ができる。
- 1、総会
- 2、評議員会
- 3、その他臨時総会

第七条（会計）

- 1、会計年度は一月から二月とする。
- 2、会員の会費は当分年間三、〇〇〇円とする。
- 3、会費は必要に応じて変更することができる。
- 4、会計報告は会報誌上にて行う。

第八条（事務局）本会は、左の事務所を置く。

熊本市北千反畑町五―一三 さろん・ど・漱雲  
〒八六〇一〇八五五  
TEL・FAX〇九六一三四三―〇〇七二  
郵便振替 〇一九四〇一―二一四九八 熊本・徳永直の会

付 則

- 1、この会則は一九九九年一月より施行する。

### 事務局移転雑事多し

「熊本・徳永直の会会報」第五号は、一九八一年九月発行、一八年前である。熊本・徳永直の会生みの親である高光義明さんが中風で倒れられて一年後である。次のような記事がある。

### 事務局変更のお知らせ

「熊本・直の会」事務局長の高光義明氏（昭和印刷所）は、昨年の夏に病気で倒れ、現在も療養中です。

このため「直の会」の事務局を熊大教育学部内の中村青史教官室に移し、同氏が事務局長を担当することになりました。

これは十五日の孟宗忌の当日参加者にはかつて決められたものです。

また事務局には、つぎの五氏があたることになりました。

木庭克敏（RKK）、千葉昌秋（営林局）、岩本 税（県立教育センター）、平晋一郎（第二高校）、森上幸義（市立高校）

（ ）は勤務先。

皆さん、気楽に事務局にお出かけください。

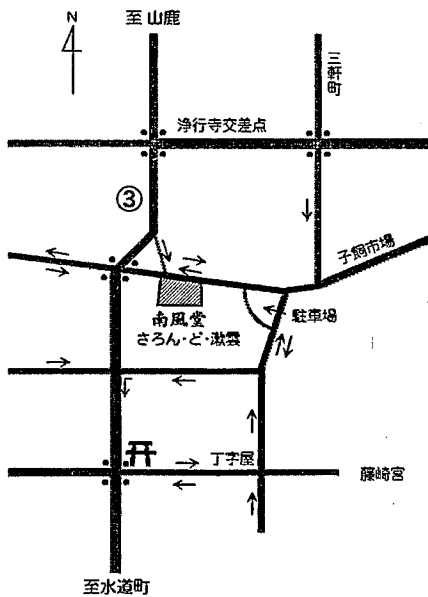
（千葉）

熊本・徳永直の会事務局

860 熊本市黒髪二丁目四〇一ー 熊本大学教育学部

中村青史教官室電話（代）四四一二一一（内線）二五八四

今春三月、中村青史の熊本大学退官に伴い事務局移転と相成ったのである。会報38号でもお知らせしたように、画廊喫茶南風堂の隣室さろん・ど・漱雲に新事務局は出来た。ところが、郵便局に届けていた住所の変更で、会則なるものが必要になった、発足当時、高光義明氏が作られた会則があったが、今回新会則を作ろうということも新しき発見であった。どんぶり勘定の経理ではやっていけないこと監査も必要になった。月並みな事業体みたくて、決算を出し、会計、そう我がままも言っておれなくなった。部屋代（含光熱費等）、電話代と熊大さまさまには行かないのである。



〒 860-0855  
熊本市北千反畑町 5-13  
TEL・FAX 096-343-0072

## 事務局だより

▽徳永直生誕百年祭を企画したところ、実に多くの人々のご賛同ご援助をいただき感謝に耐えない。ご参加の顔ぶれも新旧こもこも遠来の客もあり多彩であった。かつて外人記者クラブのチーフもなされたジャーナリストのエス・チャング氏（韓国籍）は、東京から駆けつけて下さった。トシヲ夫人の郷里宮城の佐藤三千夫記念会からは、金野文彦氏が参加され、碑前祭ではメッセージをいただいた。

▽会報39号は三月末には出すつもりであった。が、中村の熊大退官が重なり、ついに今号も予定倒れとなり今日にずれた。時間が経ち過ぎたのと、メモ等が引越して行方不明となったために、報告会報なのに記録されるべき大事なことが、抜けてはいないかと心もとない。手元にある写真が意外と少なく、当日の様子が十分伝えられないのも残念だ。

▽記念号である会報38号は、執筆者にも一冊しか渡していない状態で、残部がかなり有るので、新事務局まで取りに来て下さい。執筆者でなくても希望の方には差し上げます。

## ▽短編編集出版気運高まる

その場限りで終るイベントは価値が半減する。今回の生誕百年祭も、二月一三日の一日の行事で終わらせてはならない。そんな思いを多くの人々が持っておられ、事務局も突き上げられようしである。この会報でも幾たびか繰り返した。しかし、今年は今までと違う雰囲気がある。徳永直短編編集第一冊の出版に向けて発進する時が来たとの思いである。

## ▽徳永直文学碑修復成る

文学碑の前面部分が崩

壊したりしてかなり痛んでいた。石の標柱は数年前から交通事故（当て逃げ）に遭い傾いていた。

第22回の孟宗忌の折も、何とか修復できなかつた。声が上がっていた。金の自信はなかった。しかしこの機会だと思いい修復に踏み切った。杉野健一氏に大変お世話になった。

随分安くしていただいた。それでも実費一七万円が必要であった。昨日の今日で申し上げにくい、有志の方々のお浄財を切にお願いする次第である。（今号全て文責 中村）

熊本・徳永直の会

熊本市北千反畑町五一三 さろんど・漱雲

〒八〇一〇五五 TEL・FAX〇九六一三四三一〇〇七二

郵便振替 〇一九四〇一二二二四九八



修復成った文学碑